

四 條 畷 市 行 財 政 改 革 プ ラ ン の 概 要

1 新プラン策定の趣旨

○平成9年度に実質収支が赤字に転じて以降、実施してきた財政健全化の取組みにより、財政構造は一定改善（平成28年度決算で経常収支比率が93.5%）したが、全国及び類似団体の平均と比較すると依然高い状況である。

○高齢化の進展による社会保障費の増、四條畷市交野市清掃施設組合の新炉建設にかかる償還負担金、下水道事業会計への出資金、中学校整備事業実施による公債費の増加、人口の減少に伴う市税の減などにより、今後、財政状況は厳しくなっていくものと見込まれる。

○地方分権による業務の増加、多様化する市民ニーズに、限られた人材と財源で対応していくため、市役所内の生産性の向上と更なる財政構造の改善が必要であるという認識のもと、新たな行革プランを策定することとした。

2 プランの目標設定

I 実質収支黒字の堅持

※平成28年度決算と同程度を想定。

II 基金残高の保持

財政調整基金 19億円
公共施設整備基金 25億円

※財政調整基金は、平成28年度水準を保持。公共施設整備基金は、今後20年間の財政収支見通し上、普通建設事業費にかかる一般財源相当額総額まで順次積立

III 経常収支比率の維持 93.5%

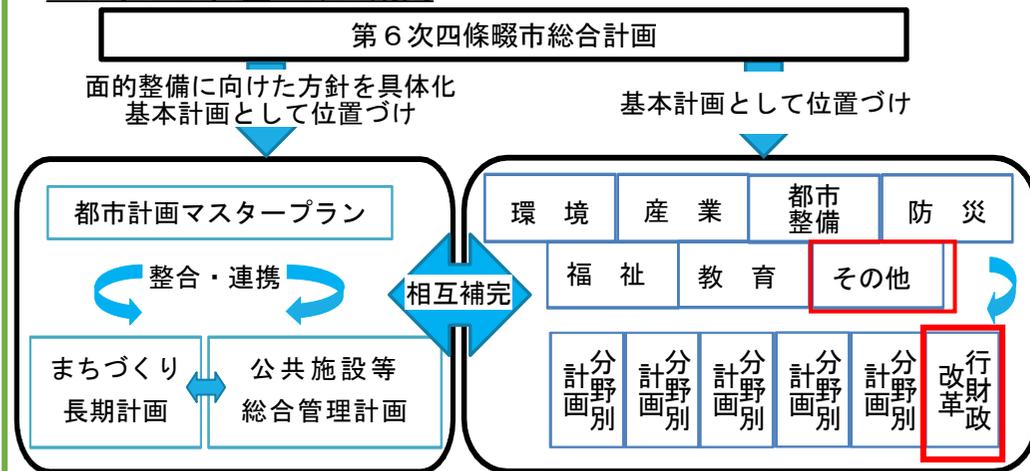
※今後、数値の悪化が見込まれるが、平成33年度決算には、平成28年度水準まで改善させる。

IV 実質公債費比率の堅持 6.6%

※今後、数値の悪化が見込まれるが、平成33年度決算には、平成28年度より数値を改善させる。

3 プランの位置づけと期間

期間：プラン策定後から平成33年度まで



4 プランの枠組み

四條畷市行財政改革プラン

プランの趣旨「諸課題に向き合う強固で弾力性ある行財政基盤の構築」

方針1
公平、公正、適正な
税等の負担と効率的
な運営

方針2
費用対効果の更なる
追求

方針3
生産性の向上を趣旨
とした業務の効率化

各実施項目

各実施項目

各実施項目

5 プランの進捗管理と役割分担

取組み項目	取組みの実施責任者	進捗管理	進捗評価	評価者	評価の頻度
全庁的取組み	行革担当部長	行革担当課長	行革推進本部	半期ごと	
課を超えた取組み	主担部長		副市長	四半期ごと	
各課の取組み	課長		行革担当部長	四半期ごと	